

ボランティアとバリアフリー

県営福祉パーク

52期生

I テーマ設定の理由

去年の自由研究は、ボランティアについて取り組みました。「ボランティアとは、いったい何か」という疑問から始まり、ボランティアの種類・必要性・問題点を理解した上で、自分でもすることのできるボランティアを見つけ、実際に老人ホームを訪ねて手伝いをするというボランティアを経験しました。けれど、体に不自由があると通常の生活にどのような不便があるのか、という疑問が残りました。そこで今回は、高齢者や障がい者の体のハンディについて、実際に体験し、調べてみることにしました。

II 研究方法

- | | |
|-------------------|----------------------|
| (1) 奈良県営福祉パークを訪ねる | 体のハンディを実際に体験する。 |
| (2) 資料調査 | 福祉パークの資料を調べる。 |
| (3) インタビュー調査 | 福祉パークの方に施設の説明をしていただく |

III 研究内容

1. ボランティア活動の基本事項

バリアフリーを調べたり、体のハンディの体験をするためには、介護者としての立場を、十分にわかっておく必要があります。だから、ここでボランティアのことを少し説明します。

(1) ボランティア活動の5原則 ～ボランティア活動の定義のようなもの～

- 自発性・自主性 — 命令や強制されたりするのではなく、自分から進んで行う。
- 無償性 — 金銭的・物質的利益を目的とせず、対価を求めない。
- 公益性 — 公共性、社会性を欠かさず、「みんなのため」に。
- 先駆性 — 社会のニーズを先取りし、社会的な不公平などの解決を独自に展開。
- 継続性 — 自分の都合だけで勝手にやめたりすると相手が困る。

(2) ボランティア活動に参加する際の心構え

◦ 相手の立場に立つ

相手のニーズを的確に把握するため、当事者や関係者の声にじっくり耳を傾ける。

◦ まわりの理解と協力を得る

活動を無理なく継続するためには、家族の理解と協力が必要だ。

◦ 約束・秘密を守る

相手との信頼関係を築く。信頼を得るためには、約束や秘密を守ることが大切である。

◦ 輪を広げる

自分一人の力には限界がある。まわりの人など多くの人や団体などと連携を図り、話し合う機会をつくり、多くの人々の知識や技能を活かすことも大切だ。

◦ 安全対策に配慮

万一の事故に備えて安心して活動できるように、活動場所の点検や緊急時の対応を考えておく。必ずボランティア保険に加入しよう。

◦ 学習を大切に

活動中さまざまな問題が生じたときは、それまでの活動を反省・評価を行って次の活動に反映させよう。

(3) ボランティア活動のいろいろ (その1)

◦ 地域をつくる

街づくり・観光案内ボランティア・花いっぱい運動・フラワーアドバイザー・地域安全ボランティア

◦ 地域福祉

高齢者とふれあう — 友愛訪問・食事サービス・施設での活動・住宅介護
障がい者(児)とふれあう — 外出付き添い・住宅介護・福祉作業所での活動・手話・要約筆記・点字、音訳図書の作成、貸し出し・障がい者スポーツボランティア・おもちゃ図書館・さわる絵本、遊び相手・技術の提供

◦ 文化や人を育てる

青少年リーダー活動、子供会・BBS活動、非行防止・不登校児を支える・解説ボランティア・子ども文庫、お話し会・わたぼうしコンサート

◦ 世界との交流を広げる

ホストファミリー・留学生 YOU & I 運動・通訳、ガイド、日本語教室・青年海外協力隊・日系社会ボランティア・その他人材派遣・国際里親・フォスター、ペアレント・国際ボランティア貯金

(4) ボランティア活動のいろいろ (その2)

◦ 健康づくり・医療

アイバンク・臓器バンク・イアーバンク、骨髄バンク・献血・病院ボランティア・エイズ予防、感染者の支援・食生活改善推進員

◦ 環境を守る

パークボランティア・自然観察指導員・自然歩道調査通信員・リバーウォッチングイン奈良・リサイクル(空き缶、ペットボトル、空きビン)

◦ 収集

使用済み切手、ベルマーク・ロータスクーボン・使用済みテレホンカード・外国コイン・書き損じハガキ・中古衣料、日用品

◦ 防災・災害救援

防砂ボランティア・応急危険度判定士・レスキューバイク・炊き出し、物資の

仕訳

◦ その他

いのちの電話、自殺防止センター・盲導犬、介助犬の育成・セルフヘルプ・赤十字奉仕団

2. 奈良県営福祉パーク

奈良県の田原本町にある県営福祉パークへ行きました。この福祉パークは、これからどんどん進むであろうと考えられている高齢化社会に対応して、高齢者や障がい者の人も快適に暮らせるための改善住宅やトイレ、道路、バス停などの共有施設モデルを見、触れて体験して、福祉のことを学ぶことを目的につくられました。

(1) 福祉住宅体験館

住宅改善モデルコーナーがあり、車イスにのったまま生活することを想像して、玄関、台所、おふろ場、トイレ、寝室などがつくられており、実際に車イスにのって部屋の中を動いてみました。

また、高齢化による体のハンディ体験コーナーでは、両脚にO脚になる装具をつけて、おまけに前かがみになるように頭と胸を固定し、杖をついて歩く体験をしました。

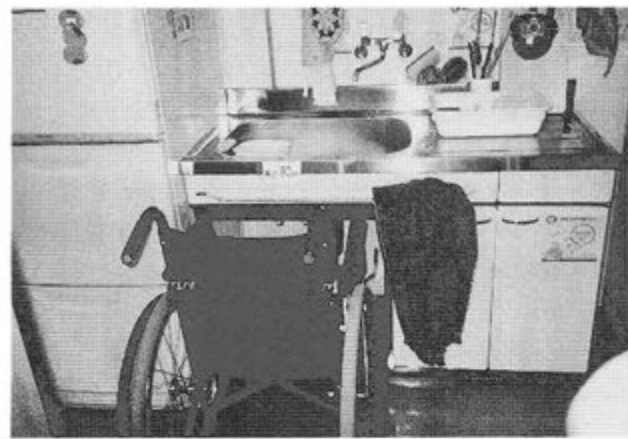


上下に動く、玄関の入り口です。ボタンを押すことにより、上下に動き、高さを合わせます。



車イスにのったまま、ドアを開けてみました。このドアは、すぐに閉まってくるので大変でした。また、傾斜があると、車イスを静止させておくことも難しいことがわかりました。

いろいろな福祉機器や介護用品の展示もしてあるために、実際、それらを目で見て、さわって、使ってみることもできました。



車イス用の台所です。流し台の高さも80cmで、やや低めでした。また、下が空洞になっていて、ちょうど車イスが入ることができるようになっていました。車イスにのっている人は、全てのことに於いて使いやすいように変えていかなければならないので、とても大変だと思いました。

(2) 屋外の広場

バリアフリーの道路や交差点、バスの停留所や障害のある人に配慮した、トイレ、軽スポーツが楽しめる多目的広場などがあり、車イスにのって、広場を散歩してみました。

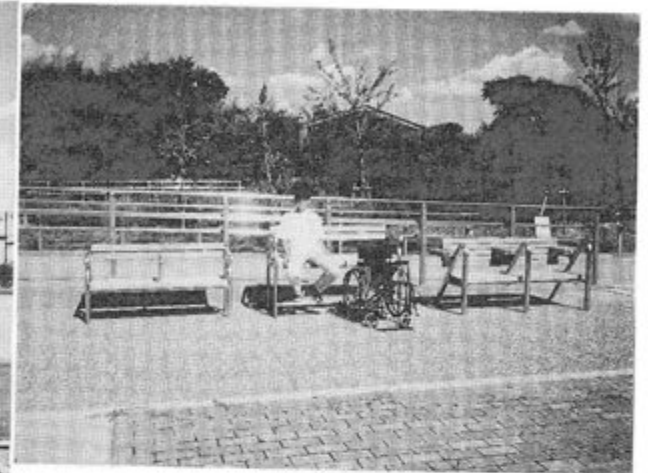


車イス用の電話ボックスです。中は広く、レバーを引くことによってドアが開閉します。



車イス用のトイレです。ドアも、ボタンで開閉し、入ると自動で電気がつきます。鏡は、少し下向きに傾いていて、車イスの人にとって見やすいようになっていました。その他にも、いろいろな工夫がされてありました。

模擬体験コーナーもあり、車イスで動くということのはどのくらい大変か、ということを知ることができました。



車イス用のいすです。腰をかける所が、少し下向きになっていたため、車イスからいすに座るとき、とても楽でした。

実際に、車イスにのって様々な道を行いました。勾配の違うスロープ(8%、12%)や、いろいろな材質の舗装、車イスで通ることのできる最小幅(90cm)の模擬体験ができました。

車イス用の水飲み場です。これも、台所と同じで下に空洞があり車イスが入れるようになっていました。水も、満身に飲むことができました。

これは、足の悪い人が歩行訓練するための場所です。勾配の違うスロープ(4%、8%、12%)があり、利用する人の能力に応じた歩行訓練ができます。



IV 結 論

ぼくがこの体験で気付いたことは、車イスで移動するには今の街ではあまりにも障害物が多すぎることです。殺風景すぎるように感じるけれど、でも、それでないと車イスで通ることができないということ、美しいかざりにさえ思っている道路の敷ブロックや石畳も、大きさや形によっては車イスでは大きな振動が伝わったり、重く感じたりすること、車イスは目線が低いため、押ボタンなどが高い位置にあると困ることがあるということ、階段では車イスは無理だからといってスロープにしてあっても、その勾配によっては、スピードが出すぎて危険があるということなど、日頃歩いていても、全く気付かないことだらけだということです。だから、車イスの視点で見なければいけません。

V 総 括

今、バリアフリーという言葉をはやり言葉のようによく耳にします。確かに、街の公共施設などはどんどん進められています。でも、理想は一体何なのでしょう。そして、その理想にどの位、近づいているのでしょうか。

街の公衆電話や自動販売機、役所・郵便局・銀行・病院の記入台も高すぎて、思うように使えません。危険防止のために作られている歩道橋のために横断歩道が減り、車イスの人は逆に遠まわりしなくてはなりません。増えつつあるセルフサービスの店も、買ったものを席まで自分で運ぶことができません。最悪なのは、学校入学や就職です。受け入れ体制ができていると言えども、それはまだほんの一部のことで、多くは拒否されているのが現状です。

しかし、世の中は少しずつ福祉に力を入れ、そういう人たちが住みやすくなる環境に近づいていることも現実です。そうなれば、街にも車イスが増え、車イスにのっているからといって、注目されることも少なくなるだろうし、また、健常者の人が普通に、障がい者やお年寄りに接することもできるようになると思います。

ぼくが今回体験したことや、このような体験を通じて、高齢者や障がい者の人がどんな肉体的なハンディを背負っているか、少しでも理解できれば、もっと優しい人間社会になるのではないだろうかと思います。

VI 参考文献

・奈良県庁 「やさしくふれあい、楽しく学ぶ県営福祉パーク」(資料)